

「種子法」廃止の今、 わたしたちの食と農はどう変わる？

お米と一言と言っても「コシヒカリ」「ササニシキ」「ゆめぴりか」「きらら 397」「つや姫」など上げればきりがなくらい多様な銘柄米が日本にはあります。大豆、小麦も各地域の気候・風土に合った品種が各地で栽培されています。これら、日本の多様な品種や種子を守ってきた「主要農作物種子法」が 2018 年 4 月に廃止され、日本の農業は大きな転換点にさしかかっています。

今後、私たちの食と農はどうなるのでしょうか。次世代につなぐ日本の食と農には何が必要なのか、私たち市民にできることが何か。世界の農と食の問題を追ってらっしゃる印鑰智哉（いんやくともや）氏を講師に招いて、学習会を行います。多くの方の参加をお待ちしています。

2019年3月9日(土) 13:30~15:30

主催 種子を守る千葉県条例を求める実行委員会
会場 船橋商工会議所 6階ホール（船橋市本町1丁目10-10）
JR 船橋駅より徒歩 7分
定員 120人
資料代 500円（資料代として）
託児 ありません。お子さんとご一緒にどうぞ

種子を守る千葉県条例を求める実行委員会 とは？

2018年9月24日、有志が集まり準備会を開催。2018年10月28日、山田正彦さん（元農林水産大臣 弁護士）を講師に、種子法学習会「タネはだれのもの？～『種子法』廃止で『日本の食と農』が危ない」を開催し、参加者の中から希望者が集まり実行委員会が発足しました。県内生協組員や生協の提携生産者、有機農業生産者などがメンバーに入っています。

講師紹介 ^{いんやくともや} 印鑰 智哉 氏

アジア太平洋資料センター（PARC）、ブラジル社会経済分析研究所（IBASE）、Greenpeace、オルター・トレード・ジャパン政策室室長を経て、現在はフリーの立場で世界の食と農の問題を追う。

ドキュメンタリー映画『遺伝子組み換えルーレット』（2015年）、ドキュメンタリー映画『種子ーみんなのもの？ それとも企業の所有物？』（2018年）いずれも日本語版企画・監訳。『抵抗と創造のアマゾンー持続的な開発と民衆の運動』（現代企画室刊、2017年）共著で「アグロエコロジーがアマゾンを救う」を執筆。